研究の経過と概要　　【カリキュラムづくりと総合学習部会】

１　研究主題

豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成と実践

２　主題設定の理由

今，子どもたちの学力向上に対する期待が，学校内外から広く求められている。私たちは，「子どもたちに本当につけさせたい学力」とは何かをあらためて問い直し，自主創造的な教育実践を積み重ねることによって，これらの声に対する結果を出していかなければならない。

子どもたちに「ゆたかな学び」を保障していくために，質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは，私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ，教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え，カリキュラムや授業プランを工夫して，その内容や方法を創り変えていく必要がある。すべての子どもたちに，学び合いの中で「学びの意欲」を喚起させる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために，日々，目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究し続けていかなければならない。

本部会ではこれまでに，主にカリキュラム編成の工夫について，総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。部会員全員がそれぞれの実践を持ち寄って意見交換を行い，総合的な学習の時間における指導の工夫や可能性について討議を重ねてきた。新学習指導要領においては，「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な，思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されているが，時間数が削減された総合的な学習の時間においては，各教科で学んだ知識や能力を活かすことによって，その成果を高めることが期待されている。そこで本部会においては，今年度は総合的な学習の時間だけにこだわらずに他の教科での実践も視野に入れて，自主編成によるカリキュラムの工夫について研究を進め，検証結果を日常実践に還元していくことを目指していく。

授業実践においては，多角的な視点を持って教材や単元を分析しながら，「どのように教えたらよいか。」「どういう授業を展開したら効果的か。」を模索していくことを基本とし，定められた指導計画によるものではなく，「教科書“で”教える。」という意識を大切にしながら，自主創造的な学習プランを策定して実践を進めていく。

そのために，次の３つの視点を重視して，成果の検証にあたる。

（１） 授業（単元）における，「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。

（２） 授業（単元）において，授業者が「自主編成した部分はどこか。」「工夫したところや作り直した点はどこか。」を明らかにする。

（３） 授業（単元）のふり返りや分析を丁寧に行い，成果と課題を明らかにする。

授業の分析においては，授業の様子を撮影した画像・映像の効果的な活用と，児童のノート・作品・感想記述等を，時間をかけて多角的に分析していくことによって，子どもの変容をみとり，成果と課題をあきらかにしたい。

本部会としては，すべての子どもたちの「学びたい」という意欲を引き出す工夫と，すべての子どもに「ゆたかな学び」を保障していくことによって，結果として子どもの学力向上につながるように，内容や方法を捉え直す努力を積み重ねていきたい。

3　研究の内容

・総合的な学習の時間や各教科に関わるカリキュラムづくり
・個人実践の交流
・授業実践と授業分析
・地域素材の教材化
・今日的な教育課題についての情報交換

4　研究計画

（1）内容

第１・２回　研究組織・研究の方向性（研究テーマ，研究計画，具体的方法）の検討
第３回　　学習会・個人実践の発表
第４回　　夏季学習会・個人実践の発表
第５回　　レポート作成（統一授業研）
第６回　　秋季教研　レポーターの選出
第７回　　研究授業・県教研の報告
第８・９回　授業分析
第 10 回　　研究の中間のまとめ・次年度に向けて確認

（2）分担

回	日時	提案者	司会	記録	会場	備考
1	5 月　8 日	－	小野	新海	塩山南小	
2	5 月 15 日	新海	新海	山縣	奥野田小	
3	6 月　5 日	原校長	山縣	古屋	日川小	学習会（原喜雄校長）
4	8 月　5 日	全員	古屋	小野	奥野田小	夏季学習会（実践の発表）
5	8 月 30 日	－	小野	山縣	牧一小	県教研提出レポートの作成
6	10 月 2 日	山縣	古屋	新海	塩山南小	授業案検討
7	11 月 27 日	山縣	新海	小野	奥野田小	統一授業研（山縣重人教諭）
8	1 月 15 日	－	小野	山縣	勝沼小	授業分析
9	2 月　5 日	－	山縣	古屋	祝小	授業分析
10	2 月 12 日	－	古屋	新海	塩山南小	研究のまとめ（中間）

5　部会所属員

原　喜雄　校長（日川小）　　岡　利光　教頭（祝小）
小野　紀男　（大藤小）　　古屋　宏記　（勝沼小）　山縣　重人　（奥野田小）
新海　直仁　（牧一小）

「ワイン樽太鼓」の実践

勝沼小学校　　古　屋　宏　記

1　はじめに

勝沼小学校の学校体制の中で，５年生の音楽を受け持つことになった。勝沼小学校では「５年生の音楽＝音楽発表会」というのが決まりになっている。

４年生から受け持っている子どもたちは，元気はいいけれど繊細な表現は苦手（教師も）。元気のいい部分を生かしていこうと考えた。

そこで考えたのが，日本人学校でもやった経験のある「ワイン樽演奏」を子どもたちに指導してみようと思い，実践した。

「自分自身の経験」

バルセロナ日本人学校で岡山の先生がワイン樽太鼓を始めた。その学年が６年生になったとき，自分が担任することになり，太鼓の指導をやらざるを得なくなった。

日本人学校では，

【フェスタ・マジョール】・・・学校のあるサン・クガット市の春の祭り
【愛子様の誕生を祝うコンサート】・・・何組かの演奏者の一員として
【北米・欧州校長会】・・・歓迎のアトラクション
【餅つき大会】・・・日本人会主催の新年を祝う会のアトラクション
【日西友好議員連盟来校】・・・歓迎アトラクション

フェスタ・マジョール

日西友好議員連盟来校

餅つき大会

などで演奏した。しかし，はじめから指導した経験はなかった。

2　教材「三宅太鼓」について

三宅太鼓は，三宅島の新着地区に伝わる太鼓芸能で，「木遣太鼓」とも呼ばれている。太鼓の打ち方は，地元では「打ち込み」と「神楽」の２種で，「木遣り」とは木遣歌ののことを指す。「神楽」は御輿が移動中に打たれる曲で，「打ち込み」は御輿が揉んでいるときや盛り上がっているときに演奏される曲。

（http://www.geocities.jp/tadokorofue/miyaketaiko.htm）

「なぜワイン樽太鼓か？」

バルセロナ日本人学校では，新しい太鼓を買うことが難しかったし，スペインはワインの産地であることからワイン樽を使うことを考えた。日本の太鼓演奏とスペインのワイン樽との融合。日本文化とスペイン文化の融合。

勝沼と言えば，日本有数のワインの産地。ワイン＋太鼓演奏＝ワイン樽太鼓

ポイントは・・・リズムは３０分で覚えられるが，いくら練習しても満足がいかない。
ふり付けが格好よく，思い切りたたける。
わらび座のビデオ（三宅島木遣り太鼓）を参考にできる。

心配なことは・・・足腰が弱くてポーズが決められない子がいないか。
足を大きく広げるので恥ずかしがる子がいないか。
地打ちの希望者がいないかもしれない。

（１）　子どもにつけさせたい力

○クラス全体で一つの目標に向かって努力する力。
○観客の中で自分のパフォーマンスを発揮する力。
○日本の伝統楽器や伝統的な音楽を楽しむ力。

（２）　授業改善プラン（ワイン樽太鼓の時間をどこから生み出したか？）

太鼓演奏には総時数２４時間をかけた。

音楽	「学年の歌」	１／１
	「共通教材『こころのうた』」	４／６
	「曲想を味わおう」	２／８
	「日本と世界の音楽に親しもう」	２／４
	「音楽の楽しさを味わおう」	２／４
	「いろんな響きを味わおう」	２／７
		計１３時間
学活	「音楽祭に何をするかの話し合い」	１時間
	「どの樽（和太鼓）をたたくかの話し合い」	１時間
	「どのパートをたたくかの話し合い」	１時間
		計　３時間
道徳	「郷土愛」	２時間
	「友情・信頼・助け合い」	１時間
	「向上心・個性伸長」	１時間
	「役割と責任の自覚」	１時間
		計　５時間
社会	「わたしたちのくらしと国土」（三宅島の位置など）１時間	
		計　１時間
総合	「勝沼の今・昔・未来」（ワイン作りとの関係）　２時間	
		計　２時間

３　指導目標

○日本の伝統的な楽器や伝統的な音楽を理解し，楽しみながら演奏することができる。

４　指導の経過

学期	月／日	教　科	内　容	備　考
1	６／２７	学　活	音楽祭に何をするか	※太鼓のリズムを覚える
	７／１１	音　楽		
	７／１３	道　徳	郷土愛	
	７／１８	社　会	わたしたちのくらしと国土	
	７／１９	音　楽		
	８／２９	学　活	どの太鼓（樽）をたたくかを決める	※自分のパートを覚える
	９／　７	学　活	どのパートをたたくかを決める	
	９／１２	道　徳	役割と責任の自覚	
	９／１９	音　楽		
	１０／　３	総　合	勝沼の・今・昔・未来	
	１０／１０	総　合	勝沼の・今・昔・未来	
	１０／１７	音　楽	（市教委学校訪問）	※何度も繰り返し，１つの演奏に
	１０／１９	音　楽		

2	１０／２２	音　楽		仕上げる
	１０／２３	道　徳	向上心・個性伸長	
	１０／２４	音　楽		
	１０／２５	音　楽		
	１０／２６	道　徳	郷土愛	
	１０／２９	音　楽		
	１０／３０	音　楽		※本番を意識して練習する
	１０／３１	音　楽	（なかよし音楽）	
	１１／　１	音　楽		
	１１／　２	道　徳	友情・信頼・助け合い	
	１１／　５	音　楽		
	１１／　６	東山梨音楽発表会		

５　児童の日記より

４月１１日　水曜日

「今日の音楽」

今日、４校時に音楽のじゅぎょうがありました。まず「ビリーブ」という曲を聴いて，歌いました。～中略～　最後に，音楽発表会でやるたいこの，前にやったときのビデオを見せてもらいました。むずかしそうだったけど、自分がやるときはがんばりたいと思いました。

６月１３日　水曜日

「音楽」

今日の４校時に音楽の授業があった。「赤い屋根の家」を２つのパートに別れてやった。～中略～　最後に、音楽発表会でやる太鼓のリズムを先生に教えてもらった。リズムをしっかり覚えたい。

９月５日　水曜日

「たいこ、ゲゲゲッ」

今日の５校時に太鼓の練習をした。まず、少し練習をした。次に流れを教えてもらって，一回通して練習した。本格的に練習するのは初めてだったから，少しドキドキした。次に順番を決めて練習した。わたしはユリさんとたたく。リコーダーもやるから，チャッパの後にたたくことになった。これからも発表会に向けて，しっかり練習していきたい。それで本番は楽しんでたたきたい。(あッ気が早いか)

１０月２５日　木曜日

「たいこ」

今日の４校時に太鼓の練習をした。少し練習してから、先生が今練習している太鼓のもとはなんなのか教えてもらった。私たちがやっている太鼓は「みやけじまだいこ」というが、本当は「みやけじまきやりだいこ」と言うそうだ。三宅島がどこにあるかは学校で調べたけど忘れたからまた明日調べたい。その後に、姿勢を調節してから、一回通したリコーダーを吹くときにノーミスでうれしかった。本番もそうしたい。明日か月曜日にははっぴを着てやるみたいだから楽しみだ。

１０月３０日　火曜日

「家庭科、なかよし音楽」

今日の５・６校時に家庭科の授業があった。～中略～　明日はなかよし音楽で全校に太鼓を発表する。わたしは前にも書いたが，本番＆プレッシャーに弱い。リコーダーでピッとかポッとかいう可能性はある。でも一生懸命がんばりたい。

１１月５日　月曜日

「明日のこと」

明日、東山梨の音楽発表会がある。本番１発勝負だからすごくきんちょうすると思う。でもできるだけきんちょうしないでいきたい。（ほどよいきんちょうで）だって７月くらいから練習してきたもん！途中からタルが入ってきて～自分がやるものをきめて～とにかく練習して～授業参観でお母さんたちに見せて～なかよし音楽で全校に見せたりしたからたぶんだいじょーぶ。まちがえても一生懸命がんばりたい。あとそんなこと全部忘れてきんちょうガタガタだったら、もういい、おもいきりやれ！ということにする。さ～て、それでは音楽発表会、がんばるぞー！**オー。**

１１月６日　火曜日

「今日のこと」

今日のお昼過ぎから東山梨の音楽発表会があった。勝沼小は最後から４番目だったから、それまでは他の学校の発表を聞いていた。どの学校もおもしろかったり、迫力があったりした。東雲小の発表が終ったら，外に出て準備をした。準備が終ったら、ぶたいのそでで出番をまっていた。その間もすごくきんちょうしたけど、リコーダーの音階の復習をして気をまぎらわせていた。そして本番。やったらあっという間だった確かにきんちょうしたけれど、やっていて楽しかった。

６　成果と課題

○総時数２４時間をどこから生み出すかが問題であったが，音楽を中心に時間を作り出せた。

○音楽の指導計画自体が２学期に余裕を作ってあるのでその点はよかった。（１学期は忙しいが・・・。）

○子どもたちにとっては，やり遂げた達成感や自信（自分たちへの自信・自分自身への自信・勝沼への自信）をもつことができたと思う。

○子どもたちが意欲的に取り組んだことはよかった。

●音楽の授業を短縮して（８時間を６時間など）やるのは，その単元で学ぶことが十分指導できたか不安が残った。

算数科における言語活動と導入の工夫

甲州市立大藤小学校　小野紀男

1　はじめに

５学年時の算数や理科の授業で，学習のまとめに時間がかかった。そこで，キーワードをランダムに提示し，キーワードを使って学習のまとめさせた。

その後，定型文を使ってまとめることを繰り返すことにより，論理的思考が高まるという他県の実践を知り，定型文を使ってまとめさせるように指導してきた。

2　単元「形の特ちょうを調べよう（対称な形)」について

（１）子どもにつけさせたい力

論理的思考力

（２）指導の工夫

① キーワード（科学的な言語）を用いた表現

② 定型文によるまとめ

③ 導入の工夫

3　単元の目標

（１）総括的な目標

対称な図形の観察や構成を通してその意味や性質を理解し，図形に対する感覚を豊かにする。

（２）観点別目標

① 関心･意欲・態度　対称な図形の美しさに気づき，身の回りから対称な図形を見つけようとする。

② 数学的な考え方　対称という観点から既習の図形を見直し，その性質をとらえて，図形に対する見方を深める。

③ 技能　線対称，点対称な図形をかくことができる。

④ 知識･理解　線対称，点対称な図形の意味や性質について理解する。

（３）本時の目標（第１時，２時）

線対称な形と対称の軸の意味について理解する。

（４）本時の評価規準

① 関心・意欲・態度

線対称のよさに気づき，身の回りから対称の図形を見つけようとしている。

② 知識・理解

線対称な形，対称の軸の意味を理解している。

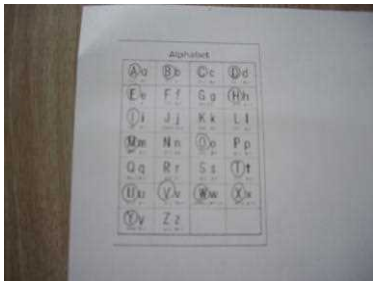
（５）展開

	学　習　活　動	指導上の留意点および評価方法
つかむ	飛行機の話を聞き，知っていることなどを発表する。 提示された３種類の飛行機の図を見る。３種類の飛行機から乗ってみたい飛行機を選ぶ。 本時の学習課題をつかむ。	本時のめあてを提示する。

	なぜその飛行機に乗ってみたいのか，理由を文章にする。	
考える	３種類の飛行機の形を，それぞれ文章に表す。	**キーワードの使用** 「形」ということばを使って表すよう指導する。
学び合う	３種類の飛行機の形を発表し合い，分かりやすい文章にする。 乗ってみたい飛行機の形と理由を発表し合い，分かりやすい文書にする。 ①まん中に線を引いておるとぴったり重なる**形**です。 ②まん中に線を引いておるとぴったり重ならない**形**です。 右と左の形を比べると**形**がちがいます。 ③②と同じ。	分かりやすい文章となるよう，必要に応じて助言する。 比較 Ａの言い方とＢの言い方ではどちらの方が分かりやすいでしょうか。 提示 ○○のような言い方はどうでしょうか。 出された意見について全員に問いかけ，各自の考え方と比較させる。
まとめる	乗ってみたい飛行機は，まん中に線を引いておるとぴったり重なる**形**です。乗ってみたい理由は安全だからです。	文章表現が苦手な児童への支援として **定型文の活用** 乗ってみたい飛行機は， （　　）形です。 理由は（　　）だからです。

第２時

	学　習　活　動	指導上の留意点および評価方法
つかむ	外国語活動の話を聞く。 Ｍ（Ａ，Ｅ）はまん中に線を引いておるとぴったり重なる形か考える。 本時の学習課題をつかむ。 アルファベッドなど，身の回りにある対称の形をみつけよう。	外国語活動での楽しいことや児童のよさなどを話す。
考え	アルファベッドの中から，まん中に線を引いておるとぴったり重なる形をみつける。	（すでに，外国語活動で，アルファベッドを学習している）

る		
学び合う	アルファベッドの中から，まん中に線を引いておるとぴったり重なる形を発表し確認する。 線対称と対称の軸の定義を知る。 「まん中に線を引いておるとぴったり重なる形：１本の直線を折り目にして二つ折りにしたとき，両側の部分がぴったり重なる形を線対称な形という。また，この直線を対称の軸といいます」 身の回りから線対称なのもを探す。	
まとめる	適用問題をする。 教科書５０ページ問題２をする。	

4　児童の様子

（１）**キーワードの使用**　**「形」**ということばを使って表すよう指導する。

キーワード（科学的な言語）を提示すると，まとめやすくなるのでキーワードを提示してほしいと要求された。提示するときには，ランダムに提示し考えさせるようにした。

提示した３つの飛行機の形を文章にさせた。

話し合試合の結果，「まん中に線を引いておるとぴったり重なる**形**。まん中に線を引いておるとぴったり重ならない**形**。右と左の形を比べると**形**がちがう」という文章にまとまった。

「対称の軸」という概念を共通して捉えさせるために，「まん中に線を引いておる」という表現で統一していく。

（２）**定型文の活用**　「乗ってみたい飛行機は，（　　）形です。理由は（　　）だからです。」

５学年の３学期から，論理的思考を高めようと思い，学習のまとめをするときには，キーワードは提示せずに，定型文だけを提示するようにするようにした。

学習のまとめができる児童には，まとめが終わった後に，提示した定型文と比較するように指導した。文章表願が苦手な児童は，定型文を使ってまとめていた。

学習のまとめが苦手なＡ児は，定型文を提示すると，時間がかかるが教師の支援を得ながら，学習したとのまとめに取り組む。定型文がないとまとめられない。

Ｂ時も同様にまとめられない。

Ａ児（算数と国語が苦手）の本時のまとめ

「乗ってみたい飛行機は，（右と左が同じ）形です。理由は（安全）だからです」

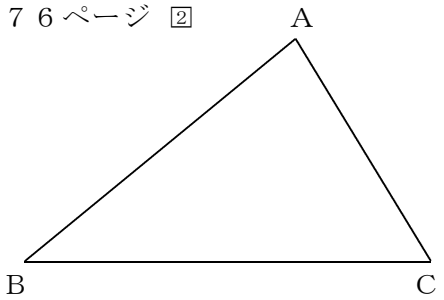
Ｂ児（算数は得意で文章表現が苦手）の本時のまとめ

「乗ってみたい飛行機は，（まん中に線を引いておる）とぴったり重なる形です。
乗ってみたい理由は（安全）だからです」

Ａ児の単元「拡大図と縮図」拡大図のかき方の説明

定型文　「はじめに（　　）。次に（　　）。それから（　　）」

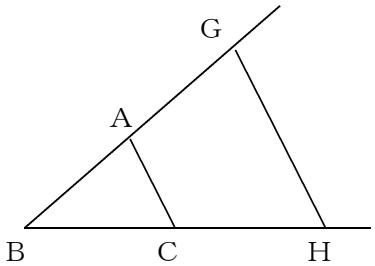
１回目　７６ページ ②



△ＡＢＣの２倍の拡大図をかく。

「**はじめ**に辺ＢＣの長さをはかる６ｃｍ。**次に**辺Ｂの角度をはかる。
それから後は書けなかった」

２回目　７７ページ③



△ＧＢＨのかき方を考える。

「**はじめ**に，辺ＢＣを２倍にのばす。
次に辺ＢＡの長さを２倍にのばす。
最後に辺ＨＧをひく」

「はじめに」や「次に」，「それから」等のことばが手がかりとなって，拡大図のかき方の手順が書けるようになっていった。

もっと，学習のまとめ行う回数を増やせばよいと思っている。

5　成果と課題

論理的な文章表現ができるようにさせようとして，５学年の後期から算数と理科でキーワードを使用したり，定型文の活用したりして指導してきた。また，分かりやすい文章表現となるように，分かりやすい文章表現を例示したり，提示したりしてきた。

しかし，分かりやすい文章表現を意識はするようになってきたが，十分にはできていない。

ある算数の研究会で，「児童の文章による表現力を高めるには，ノート指導が大切ですね」と，話し合いがまとめられた。具体的には，学習問題から自力解決，比較検討（他者の考え方をメモさせたり，自分の考えと比べたりしたことも書かせる），学習感想までをきちんと書けるようにさせることである。文章による表現力を高めることは，「思考力・判断力・表現力」高めることになる。それは，論理的思考の育成になると考える。今後は，ノート指導もていねいに行っていきたいと思った。

対話的コミュニケーション活動を取り入れた英語活動の実践

牧丘第一小学校　新海直仁

１．　はじめに

英語活動を活性化するために，仲間と協力しながらクイズの問題を考え，お互いに発表し合って楽しむ活動を行った。児童相互による対話的コミュニケーション活動を取り入れ，学習における個人差を緩和しつつ，みんなで楽しめることをねらったものである。

２．　教材「クイズを楽しもう」について

山梨市小学校英語活動案集（第４学年）の小単元「クイズを楽しもう」（３時間）をベースに構成した実践である。英語活動（年間 20 時間）の１７時間目にあたり，平成２４年２月１０日に実施した。内容は，３つの英語の単語（ex.赤い・丸い・果物）から，「リンゴ」を連想させるクイズ形式のゲームを通して，友達と協力しながら英語に慣れ親しむことをねらいとしている。指導は担任が主導し，ALT のサポートを得て行った。

（１）子どもにつけさせたい力

・英語を話そうとする力
・友達と協力しながら，クイズの問題を考える力
・自分たちで作ったクイズを，発表したり答えたりしながら英語活動を楽しむ力

（２）授業改善プラン

・英語の歌やスキット，ゲーム等による，明るく楽しい学習の雰囲気づくり
・友達と協力，相談しながらクイズづくり
・グループ対抗によるクイズ大会

３．　指導目標

３つの言葉（ヒント）を聞いて，それが何を表しているかを英語で言い当てたり，友だちと協力して英語のクイズを楽しんだりすることができる

４．　主な学習内容

（１）元気よく，英語の歌を歌う。

Ex.「heads shoulders knees and toes」「ロンドン橋落ちた」「幸せなら手をたたこう！」

（２）前時の復習として「Where　バスケット」を行う。

「gym・playground・library・music room・computer room・rest room 」などの単語と,「Where is ○○？」「In the ○○．」の会話を復習する。

（３）友だちと話し合いながら３ヒントクイズの問題を考えたり，ヒントを出し合ったりする。

（４）自分たちが考えたクイズを出し合い，みんなで英語活動を楽しむ。

５．授業の展開

過程	児童の活動	HRTのかかわり	ALT・JTEのかかわり
つかむ ５分	１　あいさつをする。 ・先生と簡単な英会話をする。 ・ネームカードを受け取る。 ２　英語の歌を歌う。 ３　前時の復習をする。	・ネームカードを渡しながら英語であいさつを交わす。 ・元気よく楽しく学習できるような雰囲気作りをする。	・大きな声と身振りであいさつする。
深める ３５分	４　学習目標をつかむ。 ・３つの言葉（ヒント）を聞いて，質問に「It's～　．」のパターンで答えるやりとりを知る。	・３つのヒントからそれが何かを当てる答え方を知らせる。	・ＨＲＴと２人で，デモンストレーションをする。
	A:I'll give you 3 hints. Hint1.Red.　Hint2.Circle.　Hint3.Fruit. Guess what it is. B:It's an apple.　A:That's right.		
	５　例題を通して，やりとりの練習をする。 【例１】	・ヒントを聞き取るように促す。	・正しい英語の発音を聞かせる。
	A:I'll give you 3 hints.Hint1.Ball. Hint2.Sport. Hint3.Goalkeeper. Guess what it is. B:It's soccer.　A:That's right.		
	【例２】		
	A:I'll give you 3 hints. Hint1.Yellow. Hint2.Fruit. Hint3.Monkey. Guess what it is. B:It's a banana.　A:That's right.		
	６　３ヒントクイズを作る。 【対話的コミュニケーション】 グループごとに相談して，クイズ作りをする。 ・単語がわからないときは，ＡＬＴやHRTに相談する。	・英語の単語がわからない児童を支援する。	・各グループを巡って，アドバイスをする。
	７　お互いにクイズを出し合って楽しむ。	・意欲的に活動できている児童を評価する。	・正しい英語の発音に近づけるように声をかける。

まとめる 5分	8　今日の活動をふり返る。 ・学習の感想を発表する。 9　あいさつをする。	・児童のよかったところをほめ，クラスで共有する。 ・次時の活動を紹介する。	 ・大きな声と身振りであいさつする。

（１）授業の様子

導入においては，身体を動かしながら元気よく英語の歌を歌っている。児童の動きや表情を見ながらギターの伴奏によってリズムやテンポを変えて，楽しく歌えるように工夫している。

学習の雰囲気を盛り上げるため，児童のリクエストによる３～４曲を選び，元気よく歌えるように支援する。英語を話すのが苦手な児童も，歌は比較的元気に歌うことができる。

本時では，昨年度まで本校に勤務していたＡＬＴに指導協力をお願いした。正確な発音の指導に定評のあるＡＬＴで，一つ一つの英単語の発音を丁寧に，じっくりと発音させることによって，子どもたちはネイティブな英語の音声に慣れる素地づくりを進めることができた。

「３ヒントクイズ」は，ルールが単純でわかりやすいため，どの児童も活動の内容を理解することができた。活動においては，対話的コミュニケーションによる話し合い活動を取り入れ，自分たちで新しいクイズを考え出したり，ヒントとなる言葉を探し合ったりすることができた。また，クラス全体で交流し合うことができ，クラスの全員が発言・発表することができた。

授業は HRT 主導で行い，会話場面やネィティブな発音が必要な場面で ALT のサポートを得る。

前時の復習では，児童たちが好む「○○バスケット」を使って，ふりかえりと定着を図る。

（２）児童の学習感想より

○グループの友だちと相談してヒントを決められたので楽しかった。

○新しい英語（単語）がたくさん出てきて，聞いたことがあるものもあった。

○フルーツは，ヒントを考えるのが簡単だった。

●ヒントが簡単すぎて，すぐに当てられてしまったので，もう少し難しいヒントを思いつけばよかった。

●スポーツでヒントを考えたけど，あまり言葉が出てこなかった。

わからない言葉（英語）は，積極的に ALT や HRT に相談するように声をかけた。

クイズ大会では，クラスの全員が参加（発表・発言）して楽しむことができた。

（３）成果と課題

話し合いによって３つのヒントを考え出すという活動においては，対話的コミュニケーションを意識した話し合い活動を行うことができた。ルールのわかりやすさと，クイズ形式への期待感によって，子どもたちはワクワクしながら学習に取り組むことができた。学習においては，既習の英単語だけではクイズが作れないことに気付いた児童は，新しい言葉を調べようと積極的にＡＬＴにアプローチを行うようになった。

グループごとの話し合い活動

また，話し合う機会を多く取り入れることによって，発言機会が増したり，自信を持って発言・発表するきっかけを得たりすることができた。

子どもたちは英語活動をとても楽しみにしており，子どもたちの多くは意欲的に学習に取り組んでいる。しかし，英語の理解は個人差が大きく，活動に取り組む姿勢に大きな差がある。今回はグループ内でリーダー的な子どもが中心になって，お互いに声を出し合って進められていたが，個々の対応となると黙ってしまう子どももいる。今後，学習内容がより高度になるにつれ，児童の個人差への対応が求められる。また，ゲームなどの活動の場面では意欲的に活動する児童が多いが，コミュニケーション場面では相手の目を見たり，表情豊かに話したりすることを苦手とする児童も多い。自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする意欲や姿勢を育てていく必要がある。